

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171000488		
法人名	医療法人社団 福寿会		
事業所名	コスモス苑「夕焼け小焼け」(ユニットA)		
所在地	岐阜県郡上市白鳥町白鳥409番地		
自己評価作成日	平成21年9月8日	評価結果市町村受理日	平成21年10月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2171000488&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成21年9月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた静かな環境の中で、地域社会との交流を深めながら、その一員としての意識をもってもらい、日々の生活の中で生き甲斐をもって生活していただけるような心細やかな支援を目指している。
医療法人社団福寿会として、グループホームの他に、小規模多機能型居宅介護、特定施設入居者介護、短期入所生活介護、居宅介護支援のサービスを行っており、それらの施設と連携をとりながら、利用者や家族の希望にそった、個々の利用者に適したより細やかな総合的なサービスの提供を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人が運営し、地域からは、地域に密着した福祉拠点として期待されている。隣接にある複合施設と機能を連携しながら、利用者本位の細やかなサービスの提供を目指している。代表者である医師は、毎日ホームを巡回し、個々の心身状態を把握しており、利用者や家族からも、医療・健康面での安心と満足の声が聞かれている。人間関係を育みながら地域生活を支える理念のもと管理者と職員は、利用者の気持ちに寄り添いながら笑顔を決やさず、利用者からも笑顔を引き出すよう努めている。そして、日々穏やかに、生きがいのある暮らしの実現に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(ユニットA)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で福祉・介護の重要な役割を果たし、地域社会に貢献するという意識を持ち、利用者のそれまでの人間関係や地域とのつながりを大切にし、馴染みの環境で暮らしてもらえようサービス理念をつくり、実践している。	馴染んだ地域環境の中で、利用者の自立を支え、安心して暮らせるための理念を掲げ実践している。職員は、笑顔を絶やさず、利用者からも笑顔を引き出すように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や老人会、運動会に参加したり、春の祭り、夏の盆踊り等が苑の庭で開催されるなど、地域との交流に努めている。また同一敷地内にある喫茶店を、地域の人と入居者との交流の場として提供している。	周辺住民が気軽に訪れて菜園や庭の手入れを手伝うなど、協力を得ている。隣接の法人施設には、喫茶店があり、地域の人々と利用者との交流の場になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談を受けたときは、認知症についての知識や介護の方法をアドバイスしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回のペースで運営推進会議を開催しており、家族、市職員、民生委員、自治会長に出席していただき、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、運営上の課題を取り上げ、改善に繋げている。請求明細書をわかりやすく改善したり、家族からは、職員の事務負担を軽減し、介護に集中して欲しいとの提案も出されている。	今後も、運営推進会議のテーマや内容を柔軟に工夫し、2ヶ月毎の開催が継続できるように期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者に相談したり、アドバイスを受けるなど、定期的に行き来する機会を作っている。	市の担当者とは、定期的に話し合いの機会を儲けている。制度の改正や介護保険事務等について情報や指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止の対象となる具体的な行為が、重大な人権侵害であることを認識し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束のない方針を、ケア会議で全職員に周知し、実践している。日中は、玄関や庭へ自由に出入りしている。	身体拘束を排除するための研修を行い、研修記録を整備し、更なる取り組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている。		

岐阜県 グループホームコスモス苑「タやけ小やけ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について、具体的にそれを活用できるような支援は行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に、または契約締結時及び解約時には、不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見を自由に言える様に提言箱を設置している。また、家族会や面会時に意見と言える機会を設けている。利用者との日常の会話の中で、利用者一人ひとりの要望や意見を聞き、それをケア会議や責任者会議で取り上げている。	意見箱の設置や職員が訪問時に利用者・家族の意見を聴き、意見の把握に日々努めているが、日常の記録に残していないため、会議等に取り上げる機会を失う意見や要望もある。	利用者・家族との会話の中で、意見を引き出せるように配慮し、記録の充実を図られたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議や責任者会議等において、意見や提案を聞き、それを運営に反映させるよう話し合っている。	毎月行われるケア会議で、職員の意見を聞く機会を設けている。これまでは、処遇の改善や、資格手当、職員の配置等に関する意見があり、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績を考慮し、各自が向上心をもって働けるよう配慮はしているが、さらなる処遇改善に努めたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者及び職員は、その段階に応じ、計画に基づいて、定期的に研修を受けている。また、今年度より施設内における新人研修を実施している。また、資格取得に対する経済的支援も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、岐阜県グループホーム協議会に加入しており、勉強会や相互訪問等の活動を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の段階で、本人や家族との話し合いを持ち、現在の状況やこれまでの生活歴等の情報をできる限り集め、そのサービス計画の基本を作成している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族ともできる限り面談し、話を聞く機会を設けて、不安と取り除き、安心してもらえるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたときは、まずどのようなサービスが適切なのかが十分に話し合い、系列施設のサービス利用も含め、その状況に合った対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は一方的に介護する人になるのではなく、利用者からみて信頼(安心)できる人として、人生のパートナーになっていけるよう、相互の関係を築くよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員が利用者と家族のような意識を持って接するよう努め、一緒に過ごしながらお互いに支え合う関係を築くことができるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できる限り本人の馴染みの店を利用したり、友人・知人に遊びに来てもらうようお願いしたり、こちらから訪問したりして、これまでの人間関係が切断されないよう支援している。	ホームは、交通の便の良い場所にあり、友人や知人が良く訪れている。スーパーや喫茶店、美容院等、馴染みの店へ出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の輪に入りきれない人がいるときは、職員が中に入り孤立しないようさり気なく支援している。		

岐阜県 グループホームコスモス苑「タやけ小やけ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同じ地域住民として、街であったときには、近況などを聞き、求められればアドバイスをすることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の話聞くことはもちろん、以前に担当していたケアマネ等からの情報をもとに、日々の生活のなかでの利用者の言動等を見ながら、一人ひとりの希望、意向を把握するよう努めている。	多くの利用者は、何時も帰宅したいとの思いをもっているが、ホームでの暮らしにも満足している。利用者が言葉の端々に表出している思いを職員が聞き取り、法事などでは、帰宅できるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族等からの情報だけでなく、日々の会話のなかから利用者のこれまでの生活環境等を聞き出し、把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日常の生活の状況を毎日の職員のミーティング等で話し合い、細かに把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や本人に相談しながら、毎日のミーティングやケア会議等で職員が話し合いをして、その意見やアイデアを介護計画に反映させ、作成している。	本人・家族の希望を取り入れながら、職員のケア会議でアイデアを出し合い、本人本位の介護計画を作成している。毎日往診している法人医師とケアマネジャーからも意見を聞き、希望の外出や外食等も取り入れた介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や個別ケースに記録し、利用者の様子やちょっとした変化などを見逃さないよう、毎日のミーティングで情報を共有し、日々の実践や計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームから自宅へ、さらに自宅からショートステイやデイサービスへと連携したケースもあり、状況に応じて臨機応変に対応している。		

岐阜県 グループホームコスモス苑「タやけ小やけ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、警察、消防、教育機関等と協力しながら支援してもらっている。また、ボランティアには頻繁に協力してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に沿うようにかかりつけ医と相談しながら、適切な医療が受けられるよう支援している。	専門科医への受診には、職員が送迎している。理事長である医師は、毎日巡回し、利用者の状態を把握している。歯科医師の往診と歯科衛生士の訪問診療もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員や系列の医院の看護師が、本人や職員の相談にのりながら、日常の健康管理等の支援をおこなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、連携医療機関との情報交換等に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に本人又は家族の意向を聞き、早い段階から重度化や終末期に向けた方針を話し合い、当事業所で出来ることをしっかりと見極め、できる限りの支援が行えるよう取り組みを始めている。	入居時に終末期の対応について、本人・家族の意向を聞いている。重度化の進行に伴い、家族や関係者と十分に話し合い、事業所で出来る事は応じる方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が個人で心肺蘇生訓練やAEDの講習などに参加しているが、全ての職員の訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署員立会いのもと避難訓練を実施しており、災害時の避難方法を職員同士で確認している。また、地域の人にも災害時の協力をお願いしている。	法人施設合同での訓練を実施し、安全な場所を定め避難誘導を行っている。食糧・水を備蓄し、近隣からの協力体制もできている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の誇りやプライバシーは最大限尊重されなければならないという意識を職員が持ち、言葉掛けや対応、個人情報の取り扱いに関して配慮するよう努めている。	利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけに配慮し、全職員で徹底している。	プライバシー保護の取り組みに関するマニュアルの作成と、研修の実施に期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者ができる限り自己決定できるよう、職員は一人ひとりの状態や性格に合わせて本人に働きかけながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り一人ひとりのペースを大切に、希望に沿った支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容・美容院等本人の希望の店があれば利用してもらうよう支援し、その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、専門の管理栄養士が立てているが、食事の状況や好みを詳細に伝え、献立に活かしている。準備や片付けをできる利用者が少ないが、できる限り一緒に行うようにしている。	利用者の好きなものを、できるだけ献立に取り入れたメニューを工夫している。食事の準備や片付けでは、利用者も役割りを担っている。食堂に音楽が流れ、一人ひとりのペースに合わせた支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	使用する薬について医師から説明を受け、その目的や副作用、用法や用量について正しく理解し、個別に服薬等の台帳を作成し、管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口の中の汚れが生じないよう、入れ歯の洗浄やうがい、歯磨きなどの口腔ケアを行っている。		

岐阜県 グループホームコスモス苑「タやけ小やけ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の表情や動作等から排泄の有無を察知し、さりげなく声かけをし、失敗が少なくなるよう支援している。排泄パターンは、記録等によって職員が把握し、できる限り自然排泄できるよう支援している。	数名の利用者については、タイミングよく誘導することで、オムツやパットの使用量を減らしている。排泄が自立している利用者には、見守りで支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師や栄養士と相談しながら、献立を工夫したり適度な運動を勧めるなど、一人ひとりに合わせた便秘対策を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応の入浴の予定はあるが、本人の希望により変更したり、時間をずらしたりして柔軟に対応できるよう努めている。	週に2回、入浴できるが、回数を増やしたい希望者はなく、職員が入浴を促している。時間帯はホームが決めているが、希望により柔軟に対応している。同姓介助を基本にしているが、異姓介助にも抵抗がなく、気持ちよく受け入れている人もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活・睡眠パターンを把握し、休息、睡眠、起床の支援を行っている。日中のメリハリある生活や適度な運動をしてもらうことによって夜間の安眠を確保するよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法、用量等の服薬の状況を一覧表にして、毎日確認しながら行っている。また、ケア会議等でも服薬の内容の確認や状況等も検討している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが張り合いや喜びのある生活が送れるように、その人の趣味や特技などを活かした活動ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には中庭に出たり、周辺に散歩に出かけている。また、祭りや花見等、季節に応じた外出支援を行っている。	近くには、神社や寺があり、手ごろな散歩コースとなっている。また、畑、草花や実のなる木が多い広い中庭では、楽しみながらの外気浴が日常化している。	

岐阜県 グループホームコスモス苑「タやけ小やけ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の可能な方には、個人で管理してもらうよう、一人ひとりの希望や能力に合わせて支援するよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る限り本人の希望通り、電話したり手紙を出したり出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花や絵を飾ったりして、生活感や季節感を取り入れ、心地よく過ごせるよう工夫している。	木を多く使った内装で、広く清潔感のある共用空間がある。季節の草花や絵が飾られ、特に、職員の活けた生花が、随所に見られ、癒しのある心地よい空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーにソファが置いてあり、それぞれの利用者が自分の居場所を確保し、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるよう配慮している。また、一人で過ごす場所も確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた生活用品や装飾品を使ってもらえるよう、家族や本人と相談しながら支援している。	居室には、機能的な造りつけの収納棚がある。使い慣れた家具、収納ケース、仏壇、家族の写真などが、ほど良く配置され、居心地に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺りや滑り止めを設置し、一人ひとりの身体機能を活かし、安全で自立した生活が送れるよう工夫している。		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向け取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	個々の職員によって介護方法が異なっていることがある。	日常生活援助において、基本を見直し、施設として一貫性のある介護を行い、利用者に安全、安心、安楽な生活を送っていただく。	職員に対する一貫性のある指導のための介護マニュアルの整備 職員教育の充実。	6 か月
2	35	火災や地震、水害等の災害時に、適切に対応できるか不安である。	緊急時にも落ち着いて適切に対処できるようにする。	避難訓練の他にも、普段から緊急時の対応について確認し合い、常に緊急時を意識して行動し、自主的な訓練も定期的に行う。	6 か月
3					か月
4					か月
5					か月

注1) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。

注2) 項目数やセルの幅が足りない場合は、行を挿入してください。